

## 論文要旨

氏名	鶴田 実穂
タイトル	Relationships between pathologic subjective halitosis, olfactory reference syndrome, and social anxiety in young Japanese women
<b>論文の要旨</b> <b>【目的】</b> Pathologic subjective halitosis (以下、PSH) とは明らかな口臭が認められないのに口臭を気にする病態であり主観的口臭ともよばれている。一方、Olfactory reference syndrome (以下、ORS) は体臭や腋臭等の身体の臭いを気にする病態であり、PSH との関連も示唆されている。また近年、PSH と対人関係において感じる不安と定義される Social anxiety (以下、SA) との関連も示唆されているが、これら相互の関連について詳細は不明である。そこで本研究では、PSH の原因となる心理特性を明らかにすることを目的に ORS および SA との関連を解析した。 <b>【対象および方法】</b> 対象は大学、短大、専門学校に在籍する 18~24 歳の女子学生 1360 名 (平均年齢 19.6 ± 1.1 歳) とした。自記式による質問紙調査を行った。質問回答としては、PSH は角田ら (2000) の方法を、また心理尺度には ORS (松下ら、2010) と SA (岡林ら、1991) を用いた。エチケットとして気になる項目として口臭、体臭、脇臭および足臭についても調べた。PSH、ORS、SA および体の気になる部位間の因果関係についてはベイジアンネットワーク分析を用いた。 <b>【結果】</b> 調査対象のうち PSH と判定された者は 33 名 (2.5%) であった。PSH のスコア値を基に 3 グループに分けたところ、ORS および SA と PSH スコアとの間に有意な関連が見られた。ベイジアンネットワーク分析の結果、SA が PSH と ORS に直接的な影響を与えていること、ならびに口や体の臭いへの意識が PSH に影響していることが明らかになった。 <b>【結論】</b> SA は PSH や ORS の原因の一つであることが示唆された。	